



THE NATIONAL  
ART CENTER, TOKYO

EXHIBITIONS IN 2025

JAN. 2025 ---> DEC. 2025

2025 年、国立新美術館は「さまざまな芸術表現を紹介し、新たな視点を提起する美術館」を理念に、引き続き多様な展覧会やプログラムを通じて、人々の共感や気づきを引き出し、共生を模索し推進する場としての活動を続けてまいります。

既にお知らせしている香港の現代美術館 M+（エムプラス）と初めての共同企画「日本の現代美術と世界 1989-2010（仮称）」（2025 年 9 月 3 日～12 月 8 日）は、1989 年から 2010 年までの約 20 年間に焦点をあて、日本の現代美術を振り返る展覧会です。両館のキュレーターの視点を融合させる本展では、日本の現代美術の姿を、文化的な対話と参加による、多様かつゆるやかなネットワークとして描き、従来とは異なった視点の提供を試みます。

3 月から 6 月には「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」を開催いたします。国立新美術館ではこれまでデザインや建築の展覧会を定期的で開催してきましたが、今回は当館のギャラリースペースを最大限に活用したダイナミックな展示に挑戦し、建築家たちが設計した 20 世紀の住まいの実験を体感できるような展覧会を目指します。

そして 2025 年秋にはもうひとつの企画展も予定しています。本展の開催情報は追ってお知らせいたします。

2025 年の国立新美術館もどうぞご期待ください。

# リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s

2025年3月19日(水) - 6月30日(月)

会場：企画展示室 1E、2E

主催：国立新美術館、東京新聞、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁



リナ・ボ・バレディ《ガラスの家》1951年

1920年代以降、ル・コルビュジエ（1887-1965年）やミース・ファン・デル・ローエ（1886-1969年）といった多くの建築家が、時代とともに普及した新たな技術を用いて、機能的で快適な住まいを探索しました。その実験的なヴィジョンと革新的なアイデアは、やがて日常へと波及し、人々の暮らしを大きく変えていきました。

本展覧会は、当代の暮らしを根本から問い直し、快適性や機能性、そして芸術性の向上を目指した建築家たちが設計した、戸建ての住宅をご紹介します。1920年代から70年代にかけて建てられたモダン・ハウスは、国際的に隆盛したモダニズム建築の造形に呼応しつつも、時代や地域、気候風土、社会とも密接につながり、家族の属性や住まい手の個性をも色濃く反映しています。理想の生活を追い求めた建築家たちによる暮らしの革新は、それぞれの住宅に固有の文脈と切り離せない関係にあるのです。

一方、それらの住宅は、近代において浮上してきた普遍的な課題を解決するものでもありました。身体的な清潔さを保証する衛生設備、光や風を取り込む開放的なガラス窓、家事労働を軽減するキッチン、暮らしを明快に彩る椅子や照明などの調度、そして住まいに取り込まれた豊かなランドスケープは、20世紀に入り、住宅建築のあり方を決定づける重要な要素となったのです。そして、こうした新しい住まいのイメージは、住宅展示や雑誌などを通じて視覚的に流布していきました。

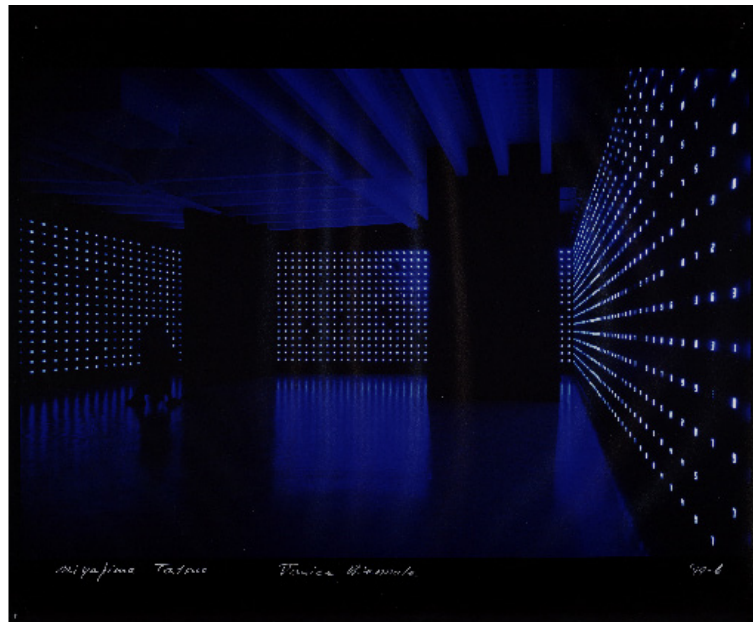
本展覧会では、20世紀にはじまった住宅をめぐる革新的な試みを、衛生、素材、窓、キッチン、調度、メディア、ランドスケープという、モダン・ハウスを特徴づける7つの観点から再考します。そして、特に力を入れてご紹介する傑作15邸を中心に、20世紀の住まいの実験を、写真や図面、スケッチ、模型、家具、テキスタイル、食器、雑誌やグラフィック、映像などを通じて多角的に検証します。今から100年ほど前、実験的な試みとしてはじまった住まいのモダニティは、人々の日常へと浸透し、今なお、かたちを変えて息づいています。本展覧会は、今日の私たちの暮らしそのものを見つめ直す機会にもなるでしょう。

# 日本の現代美術と世界 1989-2010 (仮称)

2025年9月3日(水) - 12月8日(月)

会場：企画展示室 1E

主催：国立新美術館 共催：M+



Reference Image: Tatsuo Miyajima, *Mega Death*, 1999 © Tatsuo Miyajima, ©Estate of Shigeo ANZAI, 1999  
Courtesy of ANZAI Photo Archive, The National Art Center, Tokyo

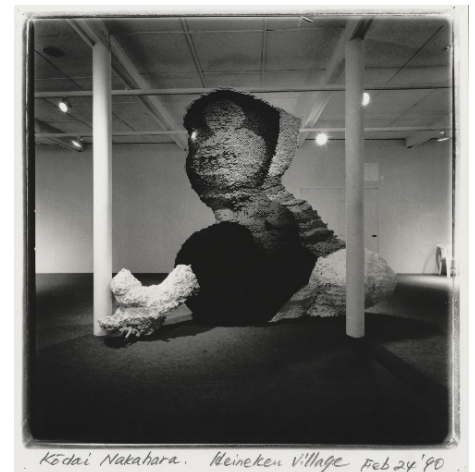
国立新美術館は、香港の現代美術館 M+（エムプラス）との初めての共同企画により、「日本の現代美術と世界 1989-2010 (仮称)」(2025年9月3日～12月8日)を開催いたします。本展は1989年から2010年までの約20年間に焦点をあて、日本の現代美術を振り返るものです。

昭和が終わり平成元年を迎えた1989年と、2011年の東日本大震災という大きな節目に挟まれたこの20年は、冷戦の終結とともにグローバル化が進み、国内外を問わず、政治、経済、文化、市民生活が大きく変化した時代です。

国や地域の枠組みを超えて、国際交流を重ねながら変化してきた日本の現代美術の軌跡をたどる本展は、この時期を象徴する作品と、諸地域で醸成されたアートプロジェクトというふたつの軸が絡みあうように構成され、国内外で活躍してきた日本人アーティストとともに海外のアーティストも取り上げます。

本展覧会は、日本の現代美術の姿を、文化的な対話と参加による、多様かつゆるやかなネットワークとして描きだします。これは、日本の現代美術の独自性を強調するという従来の視点とは異なる見かたを提案する試みです。

本展覧会では、変化に満ちたこの時代に、日本の現代美術がいかにか歴史的遺産やアイデンティティの多様性といった主題に取り組んできたか、いかに新しいコミュニティの可能性を模索してきたかを紹介します。また、グローバル化が進み始めて最初の20年にあたるこの時期に、日本の美術と視覚文化が世界に与えた影響を考察します。



Reference Image: Kodai Nakahara, *Untitled (Lego Monster)*, 1990  
©Kodai Nakahara, ©Estate of Shigeo ANZAI, 1990  
Courtesy of ANZAI Photo Archive, The National Art Center, Tokyo

## 国立新美術館について

---

国立新美術館は、芸術を介した相互理解と共生の視点に立った新しい文化の創造に寄与することを使命に、2007年、独立行政法人国立美術館に属する5番目の施設として開館しました。以来、コレクションを持たない代わりに、人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができるアートセンターとして活動しています。具体的には、国内最大級の展示スペース（14,000㎡）を生かした多彩な展覧会の開催や、美術に関する情報や資料の収集・公開・提供、さまざまな教育普及プログラムの実施に取り組んでいます。

### 来館のご案内

独立行政法人国立美術館 国立新美術館  
〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2  
<https://www.nact.jp>

開館時間：10：00～18：00  
企画展会期中の毎週金・土は20：00まで（入場は閉館の30分前まで）  
休館日：毎週火曜日、5月7日（水）、年末年始  
（ただし4月29日（火・祝）と5月6日（火・祝）は開館）

アクセス：東京メトロ千代田線乃木坂駅  
青山霊園方面改札6出口（美術館直結）  
東京メトロ日比谷線六本木駅 4a 出口から徒歩約5分  
都営地下鉄大江戸線六本木駅 7 出口から徒歩約4分  
※美術館に駐車場はございません

一般の方のお問合せ：TEL：050-5541-8660（ハローダイヤル）

### 広報用画像

---

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。  
<https://forms.office.com/r/ELPizb0WLN>

プレスリリースお問い合わせ 国立新美術館 広報室 Tel：03-6812-9925 E-mail：pr@nact.jp